

武藏野話

三

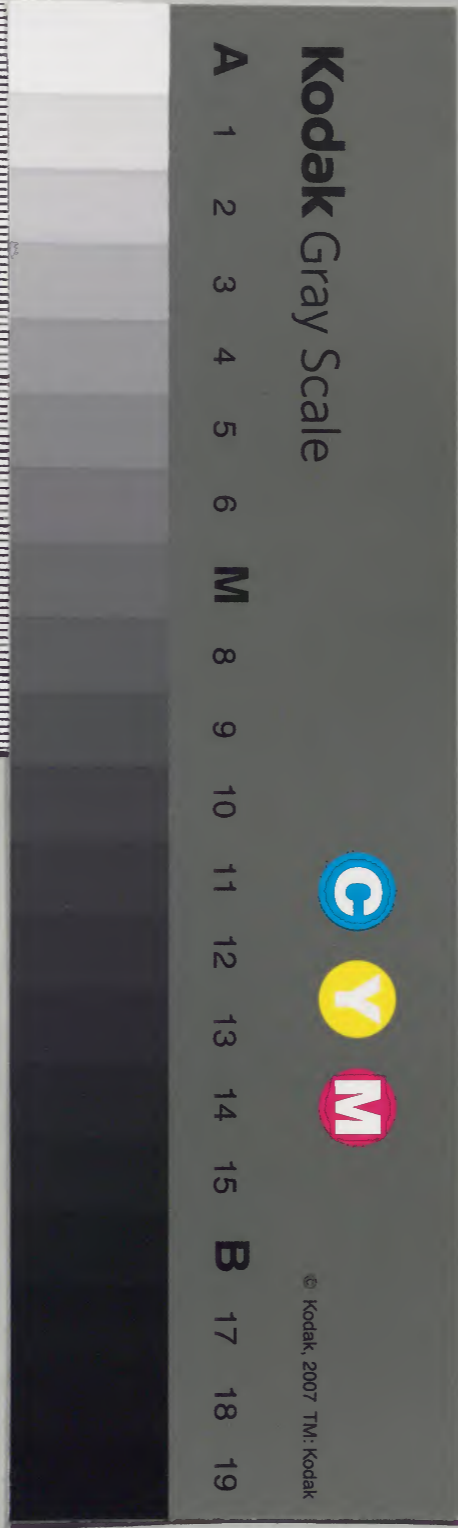
内閣文庫			
函	冊	號	類
174	3	3	和書
架	冊	號	類

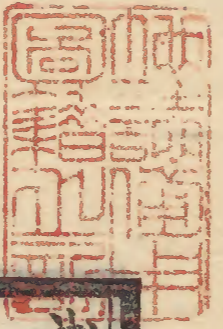


内閣文庫	
番號	和 36436
冊數	3 (3)
函號	174 6

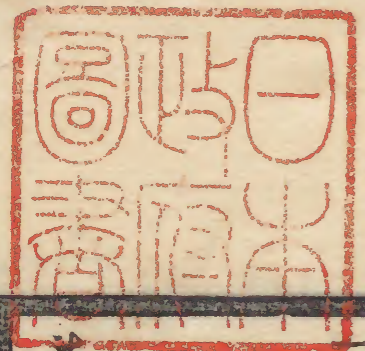
地八三

共三





秩父郡



武藏野話 附録

鶴磯樵夫著

秩夫郡我野の郷の山中に八九町躰て岩殿の觀音河、大起園
岩頭を聳を其宗をいそんる、即園の畔に洞窟あり入口横二間
餘堅之間餘あり、奥に石碑二枚あり
長き三尺餘幅一尺一寸厚さ二寸あり、其首石あり、文あり、其
一枚あり

武州高麗郡我那 岩殿山瑞巖禪寺

當寺大且那 小野高忠

一枚あり

野話 附

一 源正齋藏

里言



五三三三三



あがのうんち
戦野村
岩殿山

野結 附

二 坂正齋藏

下里村



南

洞出地



北

止

山

山

山

平等利益者也

名悲銘字

名曰

藏王靈利

恒庸花鯨

何時破壞

今改鑄成

蜜恐密字

惟因惟密

切利最宏

聲通身出

音吼八絃

都恐群字

無礙說法

普放郡生

聞覺昏夢

見摸眼睛

大恐太字

能退怪異

魔軍除情

所廢幾有

天下大平

盛字不穩

國家安穩

檀越永盛

燦日鎮照

虹月益明

謹疏

齡春誌記之

真字當作

惟時真享三

丙寅

歲九月吉日

武州見玉郡金屋村

鑄師大工

倉林平兵衛
同名傳三郎

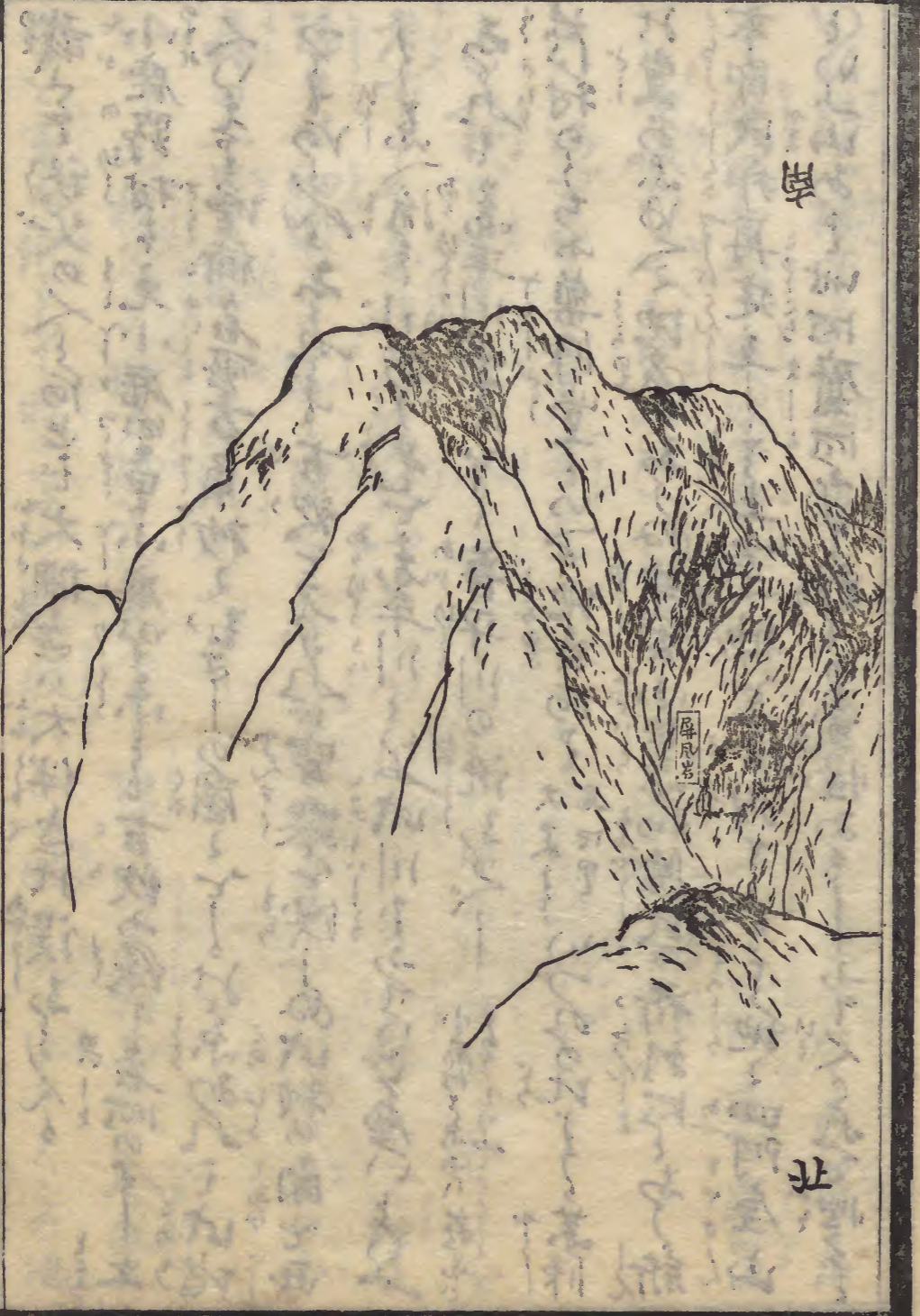
實の記了所の金玉寺に於て修造者ありてあれども今も是れ
跡に於てややく真享年間の中ありて今も是れ程の年代に
了りて極楽村の者ありて下今も森屋氏の祠に守りて
此等の跡に森屋氏増氏の森屋氏宮下氏町田氏植田氏
若林氏新井氏富田氏山泉氏松田氏等あり今も極楽村の氏
ありて今も寺にありて人ありて
上吉田村大柵造りて地ありて大宮の西北にありて山
ありて大柵造りて萬葉集に於て大伴邊少盛は依後二首

武光山



大正

金林平次



南

北

聖言



坂三齊藏

行話附



九坂三齊藏

小鹿野村家益



西神山

田



山

山

東

高野山にありては
 上吉田村の山にありては石岡村と山家なをては城山とて山あり
 此のふす所は西南の地頂小文山積命を祀て小祠あり
 高野の絶頂小将平の神あり石中刻小祠あり高野山に
 下口ありて凡所餘も下を平あり地ありて地と相馬将門
 の古城跡あり按ず。小将平の神を将門の跡後将平は居所
 ありて高野の将門の城跡ありて高野山に絶頂ありて
 夫郡中暇下るは波に絶頂ありて人ありて
 新森村に南の山に絶頂ありて此山は絶頂ありて
 村ありて高野村にありて高野山の中絶頂ありて

源順の初名類聚に秩父郡中の御名ありて今此地は
 半部大宮の近隣の中村ありて地は古の中村郷なり
 又高野村にありて地ありて高野の郷ありて
 大宮所は高野の背東北にありて高野山と高野山あり
 一向人ありて高野山にありて高野山にありて高野山にあり
 復て長者ありて高野山にありて高野山にありて高野山にあり
 高野山にありて高野山にありて高野山にありて高野山にあり
 高野山にありて高野山にありて高野山にありて高野山にあり
 高野山にありて高野山にありて高野山にありて高野山にあり



薄村染師堂

水

三



南

三

三

予活附



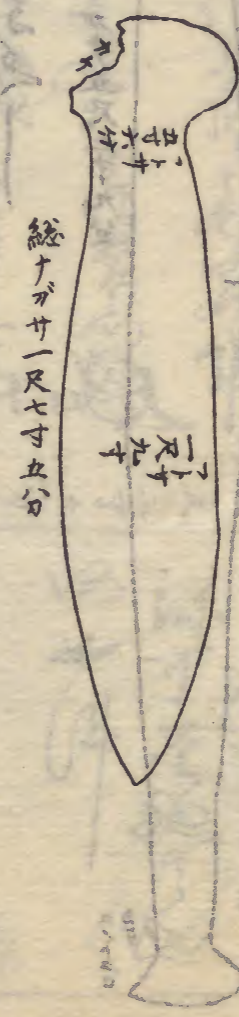
十三

聖訓



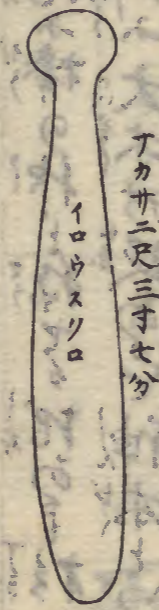
三三三

又大龍村の中小鬮場とて地あるふふと森寺とて寺
 小雷は撥と稱し石剣ありて大宮町之保氏の所也
 石あり龍を引て後又那申と表す石あり此石は
 大野の某人井と鑿んとて滑石の石より引て左小
 國



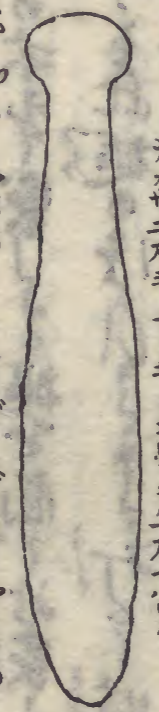
総ナガサ一尺七寸五分

又在系那務木村大金山齋院光明寺とて浄土宗也寺
 も雷芥と稱し石是あり



ナカサ二尺三寸七分
イロウスロ

又在系那下石神井村と石神井の神祠とて祠は神
 石あり土人けいひ傳ふいけい井と穿し申し出と更改
 村は石と石神井村と稱すり別神神國の也



ナカサ二尺ヨフトキトヨロミテ一尺二寸

色ウス青ク質至テカシク
オモキワ鏡ノゴトシ

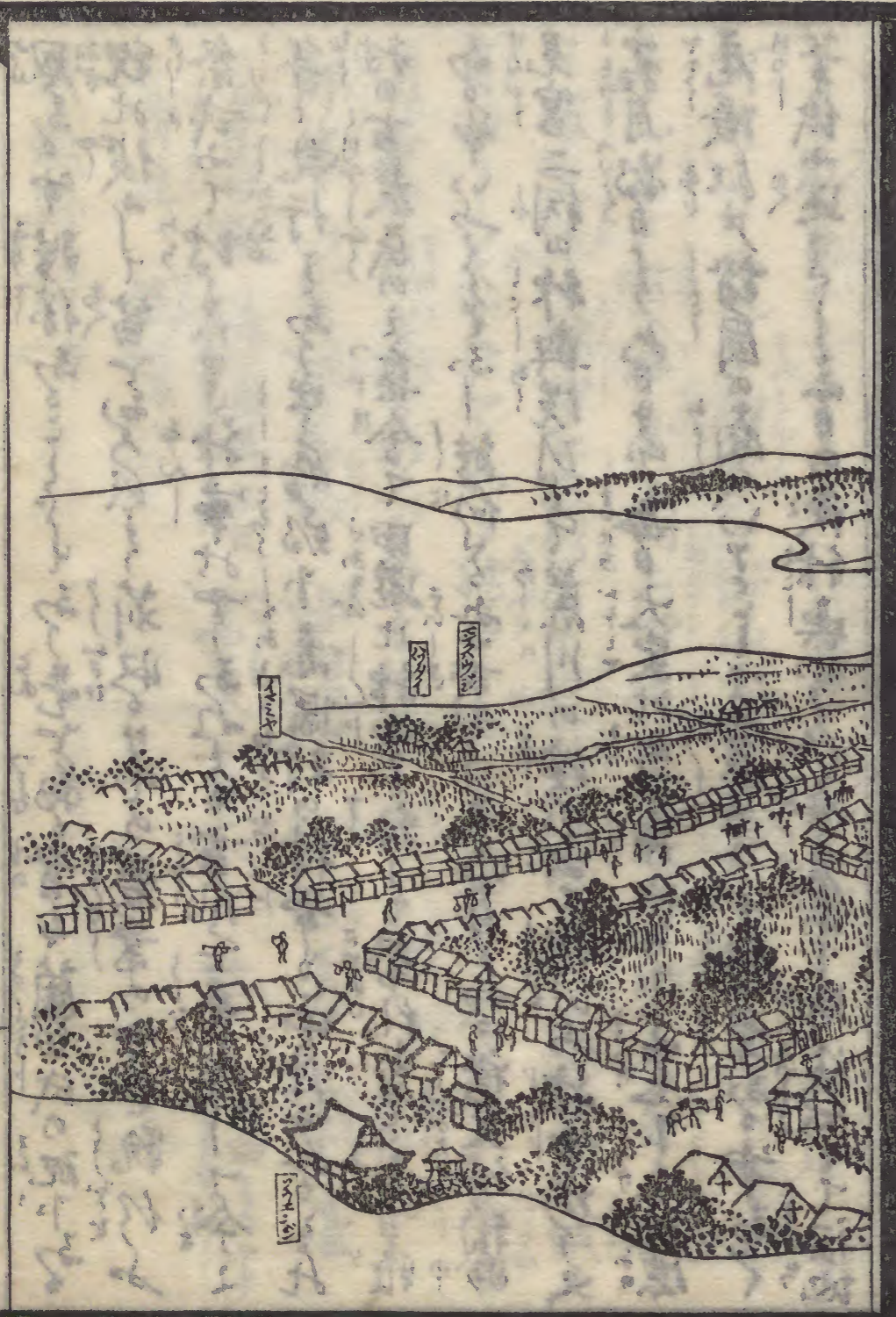
又葛師起立石村と然望之社権現の祠とて神神ハ石な
 別國産の也



コトヨロハソリテ
ナカサ二尺五分
ナカサフトキヨロミテ一尺四寸
イロ青クニカマリ銅鏡ヨリモシ

上り國するは生皆往古の石劍にて海内を掃ふる器あり上世に
 墳よりづる物を付古くありき比本邦刀劍の具更にあ
 天の村堂十握ありて劍以前に國淨の具ふ木石より製し
 るるを即ち石劍なりて天下に名譽ありて今本邦より
 少かりしは半あり本邦に懸劍を學ぶるもツラナナ打と
 長くは尺許の木より製する櫃を面て他家に掛置國淨の具
 小形置半ありと此櫃の作りしはさき打り時の浮身と學半
 を少かりしは本邦に往古より半ありん
 大宮所は川のまづれ妙見宮安並す吉田五十七石を賜ふ神
 職と世々園田氏にを司ふに境内に神宮司様と土人の孫

す。祠ありしは川延は我少我ふの緒父二座の内緒父神
 祠あり祭る所の神を知ら父命ありて國造奉紀ありて
 此祠の前此町を大宮と稱するは此神祠何よりゆふ妙見
 此に神祠の地まや妙見宮の地借あるは妙見宮に宮
 比とて向く御留置ありて是舊地なりて追々不中ありて
 る地名あり中古大宮と遷せしは信ふ妙見宮大祠
 ありて緒父神祠の山祠なり後より信家とてありて
 らる此にひいては寺院神祠ありてありて上野國
 波吉の神祠を知らふくは妙義魏の字此の流存するあり知
 下世緒父神祠と上世より二月三日山植田に神中ありて滅する古



風ふ中時保ふこころいふ是とある者る園田氏の配下ある
 親北俊みして苗をあらはしう刈收りてその農業の事を執りし
 祭式めて地もなき神事やうあねも古風をまらちて今よ
 年と執行とあり世を修め下赤塚村の神事も正月十日を
 村の古農民の集會て甲遊北神中と稱して祭礼ありて古雅
 ある事いふもふ一能くする祭式なり又六月十日は伊弉諾
 見宮二祠の神輿洗ひて荒川の濱に出で執りし神中河又
 五月朔日より十日まで毎日大宮北町ふ市をらて下毛下毛佐原
 尾張江戸諸國の商人いよして賣買するも無常ある中あり
 筆紙に述くく二日の夜神輿ありし屋敷ありて御族ありて祠地

十町七南ふ山にさす所へ引あげんとく畑の中を暗通を挑
 灯とすしつれに好集十町四方白をたてくまふ人ふた
 一山をさす所をさす上神輿と御後河の地へ居るも亦ふ
 下郷と傳へし神中と稱ひて及は細地へ引違守あり城ふ
 善つて一美と傳へる神中も瑞といふべしあるも屋敷を
 ぶる中及世守ありて神徳の若くは仰ぐべし崇むべし
 郡中よりいふ所の産物 結核前村 松茸上等
 多産物 小森 般若 赤沢 正良 青大夏 菅原
 黄連 藤山 藤原

武藏野話 畢

里計

武藏野話 初編 出版

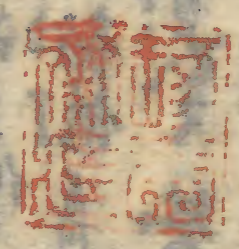
同 二編 近刻
同 三編 同
同 四編 同
同 五編 同

文化十二年乙亥春正月

南嶺紀順縮圖



不許翻刻
千里必究



發兌

江戸日本橋通一町目

須原屋茂兵衛

同 下谷池之端仲町

須原屋伊八

